



アジアを変える、世界に挑む。

## 日越大学のご紹介

### お問い合わせ先

日越大学 Vietnam Japan University (VJU)

**住所** Luu Huu Phuoc Road, My Dinh 1 Residential Area, Cau Dien Ward,  
Nam Tu Liem District, Ha Noi, Vietnam

**MAIL** info@vju.ac.vn

**TEL** +84 (0) 247-306-6001

**WEB** <http://vju.vnu.edu.vn/en>

### 国内お問い合わせ先

日越大学構想 国内事務局

**住所** 〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル  
(独)国際協力機構 東南アジア・大洋州部内

**MAIL** lrtd3-vju@jica.go.jp

**TEL** 03-5226-9065

**WEB** <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>





ベトナム国家大学ハノイ校  
総長 ゲン・キム・ソン



## ベトナム国家大学 ハノイ校総長からのご挨拶

2014年7月、ベトナム国家大学ハノイ校に属する7番目の大学として日越大学が誕生しました。このご報告を皆様にご報告を大変わうれしく思っております。日越大学がいち早くこの地域における先進的な大学へと成長し、名実ともに、日本とベトナムとの友好関係の象徴となるよう期待しています。

本校は基礎科学とハイテクノロジーの双方をベースとした教育を掲げ、日本・ベトナム両国の大学と緊密な連携を取りながら運営されています。ベトナム国家大学ハノイ校に属する大学として、日越大学はベトナム国家大学ハノイ校の良さと強みを生かすことができます。また、日越大学は相当な自主権を持ち、日本の幹事大学の協力のもと、運営されています。2016年9月には地域研究、公共政策、企業管理、ナノテクノロジー、環境工学、および社会基盤の6つの修士課程が開設され、2018年9月に気候変動・開発が加わり、更に2019年9月にはグローバル・リーダーシップが開設されます。これらの修士課程では、日本の一流大学である東京大学、大阪大学、筑波大学、横浜国立大学、早稲田大学、立命館大学及び茨城大学の協力によりベトナムの状況に適した教育を受けることができます。これらのサポートにより、世界の有名大学の博士課程への入学資格を満たす高い学力を有する学生を育て、同時に国内外、特に日本の企業・団体のニーズに応える人材を輩出することを目指しています。また、将来的には学士課程、修士課程及び博士課程を合わせ、6,000人の学生を受け入れることを目指しています。

両国政府と日本の各幹事大学の多大なるご支援のもと、日越大学は国際的な教育環境や職場環境を整え、学ぶ自由を確保し、優秀な科学者や教職員、および学生の受け皿となれるよう取り組んで参ります。本校が皆様のご期待に応え、またベトナムの持続的発展と日越両国の友好関係を強化するものとなることを確信しております。



## 日越大学学長からのご挨拶

日越大学は、日本とベトナムの友好と結束の象徴として設立されました。東京大学、大阪大学、筑波大学、横浜国立大学、早稲田大学、立命館大学、そして茨城大学といった多くの日本の一流大学と、ベトナム国家大学ハノイ校とが協力し、グローバルに活躍する人材の育成を目指しています。

本校はベトナムの新たなCenter of Excellence (最高水準の教育・研究・人材育成拠点)として、世界水準の研究大学を志すと同時に、日系企業を含むベトナムの現地企業のニーズにこたえる実践的な人材の育成を重視しています。これは、今現在の「社会的ニーズ」を満たすだけのものではなく、20年後、30年後の将来を展望して役立つものにしていく必要があります。

最大の強みは、日本からの多岐に渡る協力によって、従来のベトナムの大学にはなかった厚みのある教育が可能になることです。これは、これまでのベトナムの大学では行われてこなかった先端分野の研究・教育の導入という次元にとどまらず、幅広い視野の養成という課題を重視しています。そのため、本体は文理横断型の大学として、研究・教育の結合、産学連携においても独自性、自立性を高め、従来のベトナムの大学になかった新しいモデルを提供する大学を目指します。

日越大学は日本とベトナムだけに目を向けるのではなく、ASEAN諸国をはじめとするアジアや世界各国から広く学生を受け入れ、国籍を問わず、ベトナムや日本を含めたグローバルな活躍ができる人材を育てていきたいと考えています。本校が日本・ベトナムの友好の象徴であるとともに、アジアや世界へ開かれた国際大学として成功し、優秀な人材の育成に貢献するものであることを信じています。



日越大学学長 古田元夫



## 設立の経緯

ベトナムでは、21世紀に入り高等教育が急速な量的拡大を遂げましたが、その過程で、質の向上の重要性が叫ばれるようになりました。2010年、日本の総理大臣がベトナムを訪問した際に発表された日越共同声明では、ベトナムにおいて日本の協力による質の高い大学を設立するという検討案（日越大学構想）が盛り込まれました。この構想は、2014年3月のベトナム国家主席が来日した際の日越共同声明にも改めて織り込まれました。これを受け、ベトナム政府はベトナム国家大学ハノイ校の7番目のメンバー大学として日越大学を置くことを決定し、2014年7月に設立の運びとなりました。



### 基本理念

急速な経済発展をとげたアジア諸国において、持続可能な発展への転換が急がれています。そのような背景を受け、日越大学では、ベトナムの様々なニーズに応える実践的人材養成を重視しています。さらに、アジアの特徴・経験を活かしつつ、ベトナムの新たなCenter of Excellence（最高水準の教育・研究・人材育成拠点）となり、ASEAN諸国や世界にも開かれた大学として、グローバルな課題の解決に向け国際レベルで活躍できる人材を輩出することを目指します。

### History

2010年	「ベトナムに日本の協力を得て質の高い大学を設立することを検討する」との項目が盛り込まれた日越共同声明を発表
2012年	日越友好議員連盟、国際協力機構（JICA）、一般財団法人日本ベトナム経済フォーラム（JVEF）、及びベトナム国家大学ハノイ校の協力のもと、日越大学の基本構想を立案
2014年7月	ベトナム政府が、ベトナム国家大学ハノイ校の7番目の大学として日越大学を設立することを決定し、公布
2014年12月	ホアラクにて日越大学起工式
2015年2月	ベトナム国家大学ハノイ校とJICAが日越大学修士課程設立に関する技術協力プロジェクトの実施に合意
2015年10月	ベトナム国家大学ハノイ校総長が日越大学の6つの修士課程開設を承認
2016年9月	開学式が開催され、ミーディン・キャンパスにて修士課程が開講
2018年7月	第1回学位記授与式を開催し、初の卒業生56人巣立つ



### 日越大学の特徴

日越大学は、従来のベトナムの大学に対し、下記の点で特徴のある教育を提供します。

- 1.日本の幹事大学がカリキュラムの準備と教員派遣に協力し、国際水準の教育を提供します。修士課程では、全教員の約50%が日本人教員で構成されます。
- 2.授業は英語で実施、必須科目として日本語教育を実施。その他、日本文化・ビジネス慣習への理解を高めるカリキュラムを準備しています。
- 3.日本、及びベトナムの日本企業におけるインターンシップを行い、実践的な人材育成を図ります。
- 4.自主的に働く能力と、想像力を備えた人材育成を目指し、問題解決型、参加型学習に重きを置いた教育を実践します。

## キャンパスの概要



### 新キャンパス（ホアラク・ハイテクパーク及びホアラク）



- ホアラク・ハイテクパークはハノイ中心部から約30kmのホアラク地区にて整備中の科学技術拠点都市。広さは約1千ha。
- ズン前首相の要請を受け、日本が同パーク内の基礎インフラ（道路、上下水道、配電等）整備を円借款にて支援中。
- サン前国家主席が、同パーク及び隣接地（ベトナム国家大学ハノイ校移転用地）の一部を日越大学建設用地として指定。
- ハイテク工業団地の他、FPT大学や科学技術大学をはじめとする研究開発・教育訓練施設を建設。
- 産学官のハイレベルな連携を実現する、ベトナムを代表する科学技術の一大拠点として開発。

### 現ミーディン・キャンパス（ハノイ市内）



撮影 勝恵美

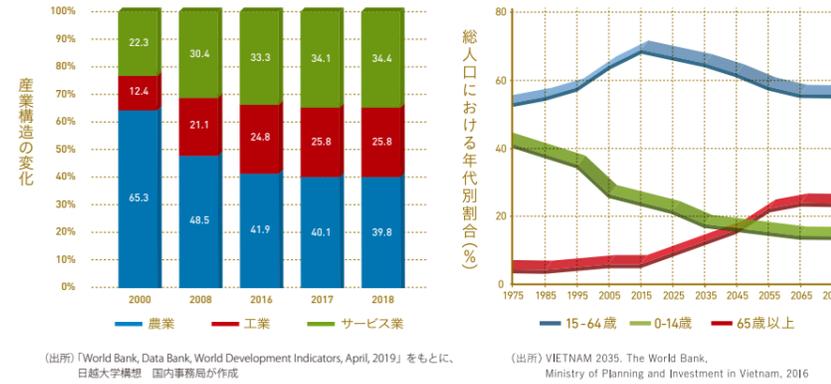
- ベトナム国家大学ハノイ校は、ハノイ市内に4つのキャンパスを保有。教員約2千人、学生約4万人、7つの大学、3つの研究所等から構成。
- 2016年9月、日越大学のミーディン・キャンパスがベトナム国家大学ハノイ校近隣にて開学。
- 遠隔講義やテレビ会議用設備が整った教室、図書室、教職員や学生のための交流スペース等を整備。

# 日本・ベトナム両国の人材需要に対する本校の役割

## ベトナムにおける現状と需要



国民一人あたりのGDPは大幅に増加し、工業とサービス業を中心に、経済発展に大きく寄与しています。その一方で、高齢化や労働人口の減少、労働生産性の低下・停滞といった問題が起こることが予想されています。現在の労働集約型産業から脱却し、持続可能な成長を続けるため豊富な知識をもち、新たな経済社会に対応できる人材の育成と、先端研究に立脚した科学技術の発展が急がれています。



## 日越大学の果たすべき役割

実践的な人材の養成に重点を置き、両国の技術・経済発展に貢献する

日本やベトナムにとどまらない、グローバルに活躍できる人材を輩出する

## 日本における現状と需要



日本国内では、高齢化と人口減少に伴って労働人口の減少が加速しており、生産性の向上のため外国人や高齢者の雇用促進と女性の活躍が重要視され始めています。国内市場が縮小しつつあることもあり、世界市場に目を向けたグローバル経営は多くの企業に求められています。日本企業にとってベトナムは魅力的な市場であり、ベトナムに進出する企業が増えています。しかし、ベトナムにおけるビジネス展開に必須のマネジメントを行える人材が不足しており、進出企業の課題のひとつとなっています。

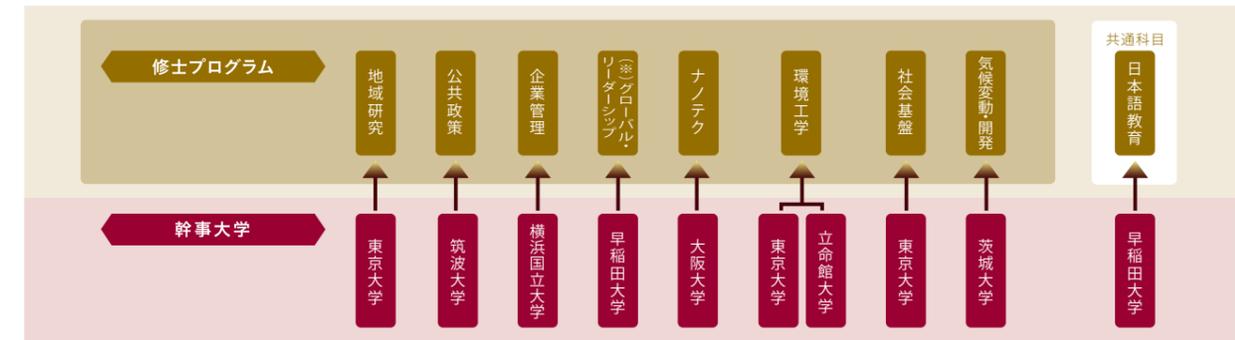
# 日越大学独自の文理横断型教育プログラム

## 修士プログラム

幅広い視野を持つ学生を育てるため、日越大学は文理横断型の教育プログラムを採用しています。2016年9月には、地域研究、公共政策、企業管理、ナノテクノロジー、環境工学、社会基盤という6つのプログラムからなる修士課程を開設し、2018年9月に気候変動・開発が加わり、更に2019年9月にはグローバル・リーダーシップが開設されます。それぞれのプログラムに対し、日本の一流大学が幹事大学となり、教育プログラムの作成や実際の教育・研究活動を支援しています。日本の大学カリキュラムに基づく質の高いプログラム、授業の約50%は日本の一流大学の教員による教育、流暢な英語及び基礎的な日本語の習得、日本の文化や日本式ビジネススタイルの理解、日本やベトナムの日系企業でのインターンシップ等が修士プログラム全体の特徴です。

## プログラム紹介

各プログラムの内容と特長は下表のとおりです。



プログラム名	地域研究	公共政策	企業管理	グローバル・リーダーシップ	ナノテクノロジー	環境工学	社会基盤	気候変動・開発
教育目的	①日本やベトナムの主導的研究機関で用いられている最新のセオリーと学際的アプローチ、研究方法を用い、日本あるいはベトナム研究にかかる専門知識を身につける、②日本及びベトナムに関する諸問題を理解するための網羅的な知識を学ぶ、③日本、ベトナム、その他の地域における持続的開発の途上で起こる様々な事象を研究するための学際的手法を身につける。	持続可能な開発のための政策過程に効果的に参加するべく、政策にかかる問題を理解し、評価するためのマインドセットと技術を身につける。	①これからのビジネスに資する経営学の基礎知識と理論、研究方法論、分析能力を身につける、②日本型マネジメントとサステナビリティを中心に、ベトナムのみならずグローバルな環境で通用するビジネスの基本哲学と実践を学ぶ、③経営倫理、企業文化、企業の社会的責任にかかる理解を深める。	国際社会におけるグローバル・ガバナンスおよびASEANを核としたアジア太平洋地域のリージョナル・ガバナンスのなかで、持続可能な開発目標 (SDGs) を含めた地球・地域規模課題の解決を牽引できるグローバルリーダー・高度職業専門人を養成する。	①物理、化学、生物工学等におけるナノテクノロジー関連の専門知識を身につける、②ナノテクノロジーに関する理解、分析、課題解決手法を学び、ナノスケール物質の創成やマルチスケールで分析できる能力を得る、③ナノテクノロジー分野における高度な研究・技術人材を育成する。	①化学、物理、生物学の基礎に基づく、環境関連技術や、環境パラメーターの分析技術を学ぶ、②環境管理、評価、予測を含む環境にかかる専門知識を学ぶ、③現場における研究活動を行い、自律かつ創造的に思考するためのトレーニングを行う。	インフラプロジェクト、あるいは近代的交通手段のデザイン、建設、運営手法を身につける。具体的には、交通インフラ、橋梁等の計画・設計・管理、地下土木、都市・地方・交通開発計画等。	社会的影響が顕在化していくことが懸念される気候変動に対応できる高い能力を持つ人材を育成する。そのため、気候変動分野に関する基礎知識を学び、国内・国際的なレベルでの対応に向けた学際的な知識と高度な分析手法を身につける。
プログラム概要	ベトナム国家大学ハノイ校及び東京大学における、歴年のベトナム研究、日本研究の成果を踏まえた、最新の地域研究を学び、ベトナムあるいは日本社会への知の還元を目指す。	経済・産業活動、国・地域開発、国際関係とのかかわりを重視しつつ、公共政策の複雑さ、課題、政策策定、実施、評価について理解を深める。また政策立案者、社会的指導者に必要となる、分析ツールや技術を身につける。	トリプル・ボトム・ライン(環境・社会・経済の三側面)による企業業績評価、国の違いや政府の施策、組織文化などが企業経営に及ぼす影響、日本型マネジメントの特徴と考え方などを戦略経営、国際経営、組織行動、マーケティング、財務、オペレーションズ・マネジメント等の授業科目を通じて議論する。	①国際政治・安全保障、国際経済、国際社会・文化のそれぞれの領域から国際協力へアプローチできる学際的な学習機会を提供する。②ベトナム人学生のみならず、近隣アジア諸国、そしてアジア以外の地域からの留学生に門戸を開き、国際的な学習環境を実現する。	量子レベルのナノスコピックな視点より、複雑な課題を解決する力を身につける。また物理学、化学、生物工学等を取り入れた学際的な視点を身につけるため、複合・融合カリキュラムを履修する。	日本で発展してきた環境工学技術やその適用システムを含め、持続的な開発に資するための、環境工学の知識、技術を幅広く身につける。	①アジアのインフラ市場における有能なエンジニアに対する需要を満たすべく、実践的な技術と知識を身につける、②社会インフラへの理解や人間性も備えた、学際的視点を身につける、③環境問題への対応を含む、日本の経験を共有する。	①気候変動のメカニズム解明と将来予測に向けた基盤的知識の理解、②生態系、経済、コミュニティなど様々なレベルにおける気候変動の影響・脆弱性の評価手法の理解、③工学、農学、経済学、政策的手法により、気候変動の緩和あるいはそれに適応するための理論および対応手法の理解。
一般知識	哲学(4単位)				日本語(6単位)			
専門基礎・知識	サステナビリティ学基礎論(3単位)/サステナビリティ学方法論・情報論(3単位)							
共通必修科目	アカデミック英語(4単位)							
共通選択科目								
プログラム必修/選択科目	23単位	24単位	26単位	24単位	24単位	25単位	26単位	27単位
(必修・選択科目例)	ベトナムの伝統と近代 現代日本の社会と文化	公共政策の策定・実施 都市・地方開発政策	経営情報システム リスク・マネジメント	アジア太平洋地域の国際関係 グローバル・リーダーシップ基礎論	量子力学 バイオケミカルエンジニアリング	産業・危険廃棄物管理 アジア諸国における環境技術	都市計画と土地利用計画 橋梁・道路の維持管理	気候変動への適応と緩和 気候変動の影響と脆弱性評価
インターンシップ	6単位	6単位	6単位	6単位	6単位	6単位	6単位	6単位
修士論文	15単位	14単位	12単位	14単位	15単位	14単位	13単位	12単位
修了要件単位数	64単位							